



丸子のとうろ汁は芭蕉も食し、「梅若菜丸子の宿のとうろ汁」と詠んだ丁子屋の前にこの句碑がある。

東海道五十三次
江戸より三番目の宿
丸子 丸子



東海道
五十三次
丸子

松重喜

繁華な前宿府中から一度して丸子は静かな山あいの里である。ひなびた趣のあるこの場所には素朴なとうろ汁が似合う。昼なお小暗い宇津谷峠には旅人を襲う鬼伝説が伝わりいまも厄除けの十団子が住まわっている。



丸子宿周辺は道場も二段と細く日陰から竹谷間を歩いていく感じがある。宿場関係の史跡は本陣跡の碑があるのみだが古めかしい民家が立ち並ぶ静かな通りもある。丸子宿のとうろ汁は粘りの強い特産の自然薯をみそで煮詰めて麦飯にかけて食べるもので古くからの地の名物であった。ほかでも丁子屋やワラギ屋根の昔懐かしいたたずまいが人気を呼んで日祭目下には深い東海道が渋滞することもある。広重の描いた風景とそっくりなため店の前では記念撮影していく人も多い。